

2022年度第3四半期決算説明資料

2023年2月7日

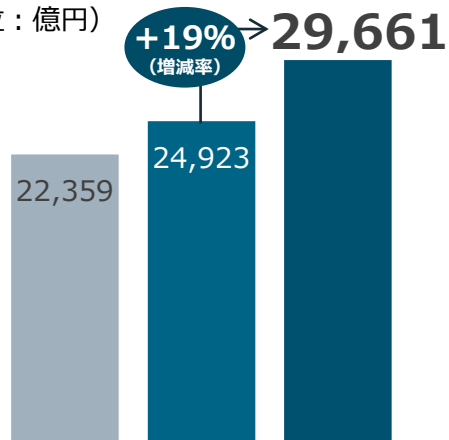
三菱重工業株式会社

I. 決算のポイント	3-5
II. 2022年度第3四半期決算実績	6-14
<ul style="list-style-type: none">・ 連結経営成績サマリー・ 連結財政状態、キャッシュ・フロー・ 事業利益増減分析・ セグメント情報	
III. 2022年度業績見通し	15-17
IV. 補足資料	18-21
SpaceJet について	22-23

I. 決算のポイント

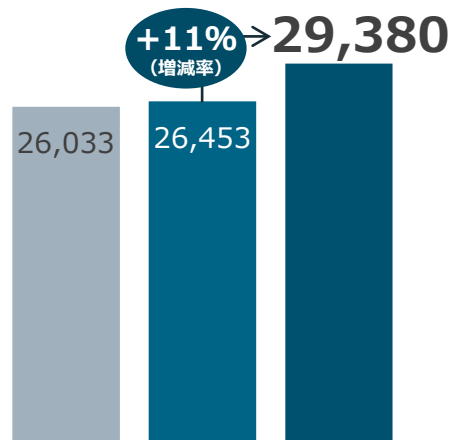
受注高

(単位：億円)



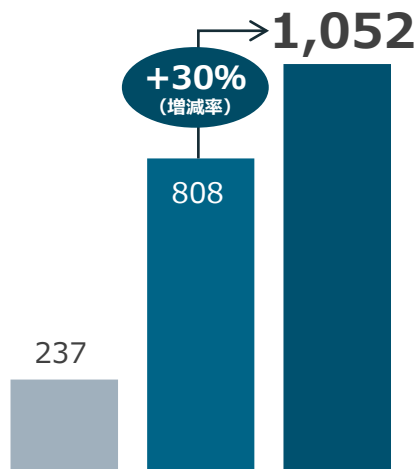
FY20-3Q FY21-3Q FY22-3Q

売上収益



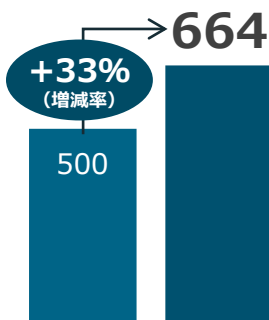
FY20-3Q FY21-3Q FY22-3Q

事業利益



FY20-3Q FY21-3Q FY22-3Q

当期利益



FY20-3Q FY21-3Q FY22-3Q

EBITDA

2,086

億円

(YoY +293億円)

EBITDAマージン
7.1%
(YoY +0.3%)

フリーCF

△2,132

億円

(YoY △651億円)

営業CF
△2,177億円
(YoY △259億円)

有利子負債

9,973

億円

(YoY △1,738億円)

純有利子負債
6,676億円
(YoY △1,453億円)

D/Eレシオ

0.58

(YoY △0.21)

自己資本比率

29.9%

(YoY +2.6%)

- 受注高：29,661億円（前年同期比：+4,738億円）
エネルギー、物流・冷熱・ドライブシステム、航空・防衛・宇宙の3セグメントが前年同期比増加
GTCCは、米州、アジア、中東を中心に受注を伸ばし、前年同期比57%増の5,368億円と受注増を牽引
- 売上収益：29,380億円（前年同期比：+2,926億円）
エネルギー、物流・冷熱・ドライブシステム、航空・防衛・宇宙の3セグメントが前年同期比増収
- 事業利益：1,052億円（前年同期比：+244億円）
世界的なインフレ高進にともなう減益影響があるものの、売上増、売価改善、固定費削減、為替影響等が寄与し、事業利益は前年同期比30%増益の1,052億円となった。
- 当期利益：664億円（前年同期比：+164億円）
事業利益の増加により、当期利益は前年同期比33%増益の664億円となった。

Ⅱ. 2022年度第3四半期決算実績

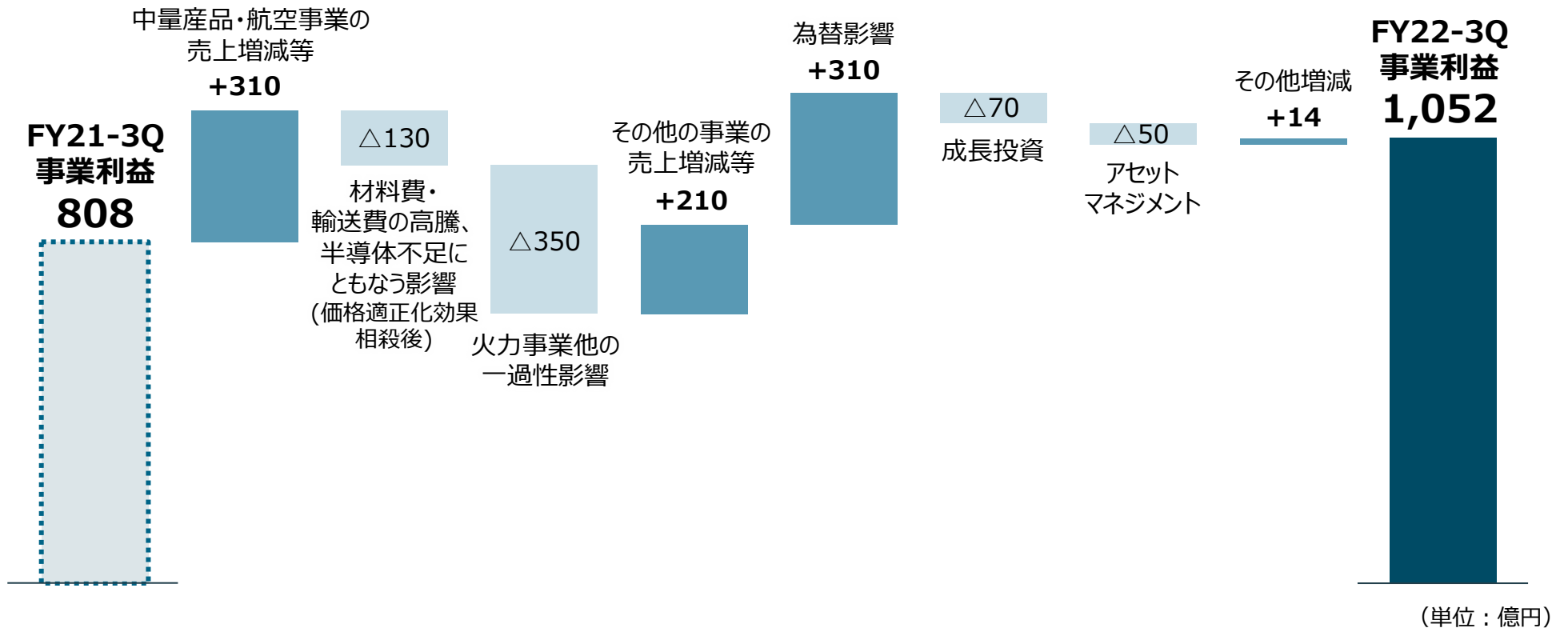
(単位：億円)	FY2021-3Q (利益率)	FY2022-3Q (利益率)	増減 (利益率)	(増減率)
受注高	24,923	29,661	+4,738	(+19.0%)
売上収益	26,453	29,380	+2,926	(+11.1%)
事業利益	808 (3.1%)	1,052 (3.6%)	+244 (+0.5%)	(+30.3%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	500 (1.9%)	664 (2.3%)	+164 (+0.4%)	(+32.8%)
EBITDA	1,792 (6.8%)	2,086 (7.1%)	+293 (+0.3%)	(+16.4%)
フリー・キャッシュ・フロー	△1,481	△2,132	△651	

連結財政状態、キャッシュ・フロー

連結財政状態	(単位：億円)	FY21末	FY22-3Q末	増減
売上債権（営業債権、契約資産）		13,994	14,814	+820
棚卸資産		7,986	9,512	+1,526
その他流動資産		6,050	6,978	+927
（現金及び現金同等物）		(3,142)	(3,296)	(+154)
固定資産		9,892	9,951	+58
投資等		13,239	13,519	+280
資産合計		51,163	54,776	+3,613
営業債務		8,632	7,706	△926
契約負債		8,865	9,124	+259
その他		9,690	10,662	+971
有利子負債		7,349	9,973	+2,624
資本		16,625	17,310	+684
（うち親会社の所有者に帰属する持分）		(15,766)	(16,371)	(+605)
負債・資本合計		51,163	54,776	+3,613
キャッシュ・フロー	(単位：億円)	FY21-3Q	FY22-3Q	増減
営業キャッシュ・フロー		△1,918	△2,177	△259
投資キャッシュ・フロー		436	45	△391
フリー・キャッシュ・フロー		△1,481	△2,132	△651

事業利益増減分析

- 売上の増加や、為替円安影響が利益を押し上げ
- 価格適正化の取り組み効果により材料費・輸送費の高騰の影響を抑制
- 火力事業において前年同期の好採算工事進捗の反動により前年同期比で利益が減少
加えて、欧州拠点の構造改革や海外工事案件などで一時費用を引当て
- エネルギー価格高騰により固定費増の影響があったものの、業務改善等により影響を吸収



2022年度第3四半期決算実績 セグメント別内訳



	受注高			売上収益			事業利益		
	FY21 3Q	FY22 3Q	増減	FY21 3Q	FY22 3Q	増減	FY21 3Q	FY22 3Q	増減
(単位：億円)									
エネルギー	8,796	12,066	+3,270	10,737	11,994	+1,257	138	388	+250
プラント・インフラ	6,391	5,856	△535	4,612	4,572	△39	127	144	+17
物流・冷熱・ ドライブシステム	7,208	8,845	+1,636	7,085	8,697	+1,612	227	222	△5
航空・防衛・宇宙	2,798	3,145	+347	4,239	4,320	+80	204	315	+111
全社又は消去	△271	△252	+18	△220	△204	+15	110	△17	△128
合計	24,923	29,661	+4,738	26,453	29,380	+2,926	808	1,052	+244

セグメント別 決算実績 <エナジー>

(単位：億円)

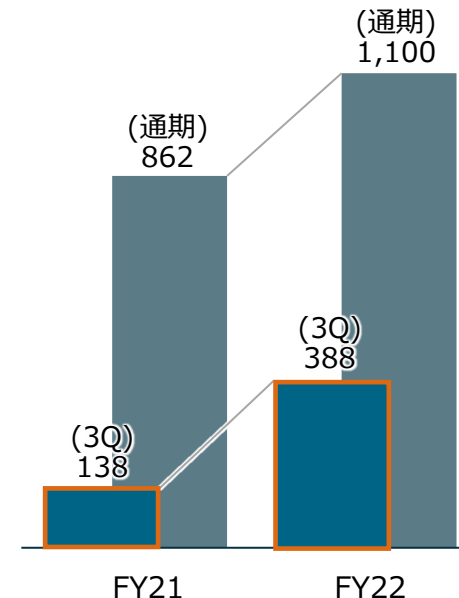
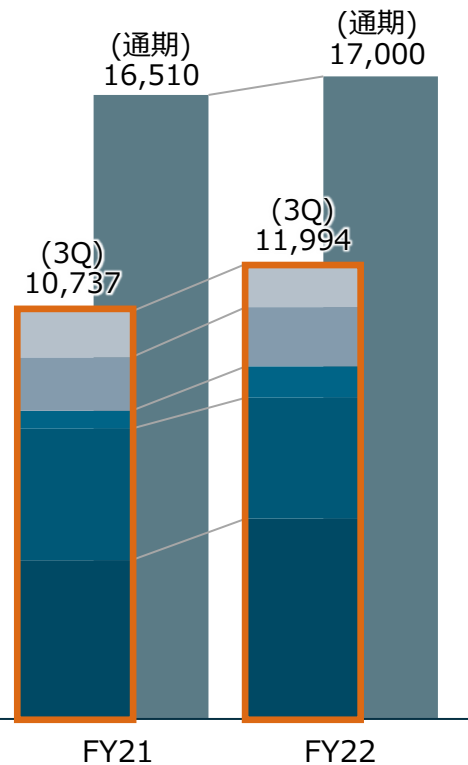
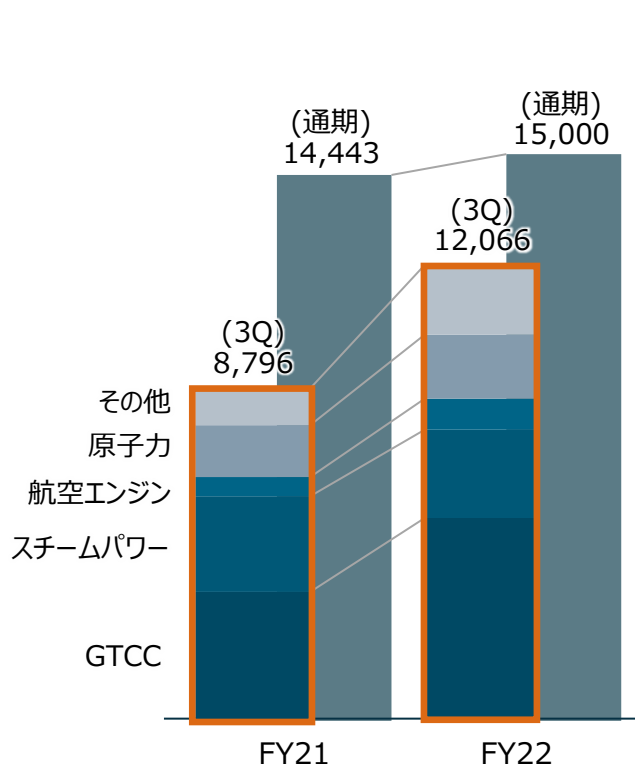
受注高

売上収益

事業利益

3Q実績 前年同期比

- 増益：**
- ・GTCC
 - ・航空エンジン
 - ・原子力
- 減益：**
- ・スチームパワー



主な事業	受注高	
	FY21-3Q	FY22-3Q
GTCC	3,411	5,368
スチームパワー	2,532	2,342
航空エンジン	511	817
原子力	1,372	1,698

主な事業	売上収益	
	FY21-3Q	FY22-3Q
GTCC	4,149	5,254
スチームパワー	3,481	3,202
航空エンジン	481	828
原子力	1,411	1,564

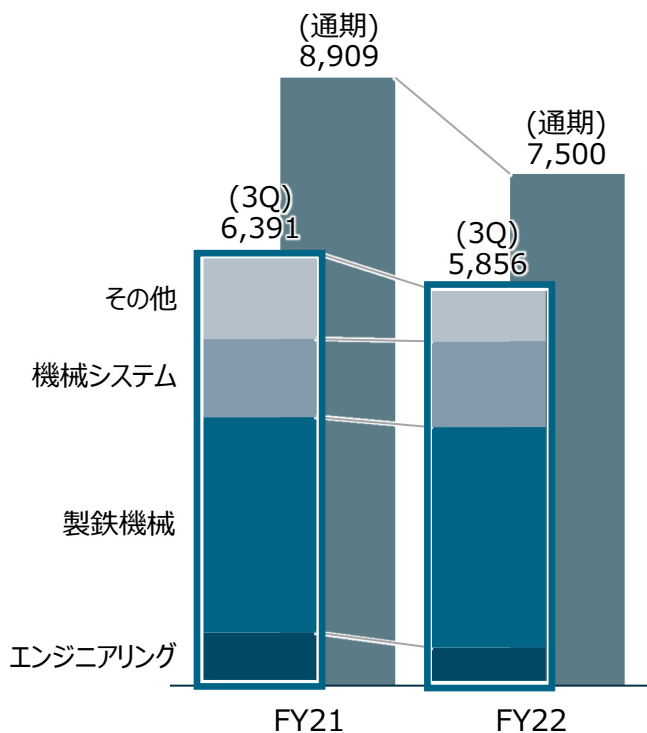
決算実績のポイント

- GTCCは受注、売上ともに好調
- スチームパワーは新設工事が減収
- 航空エンジンは航空需要回復にともない
スペアパーツ販売、MRO事業ともに好調
- 原子力は堅調に推移

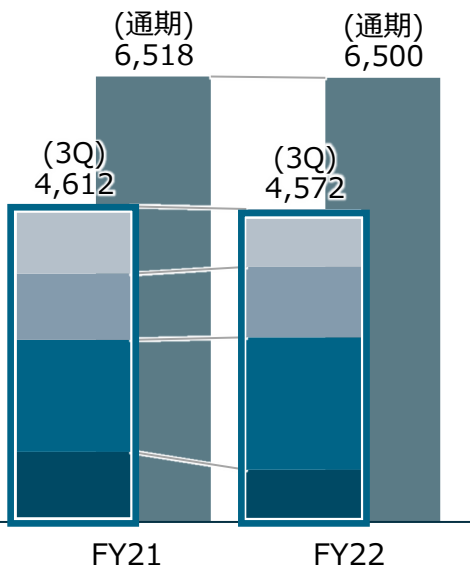
セグメント別 決算実績 <プラント・インフラ>

(単位：億円)

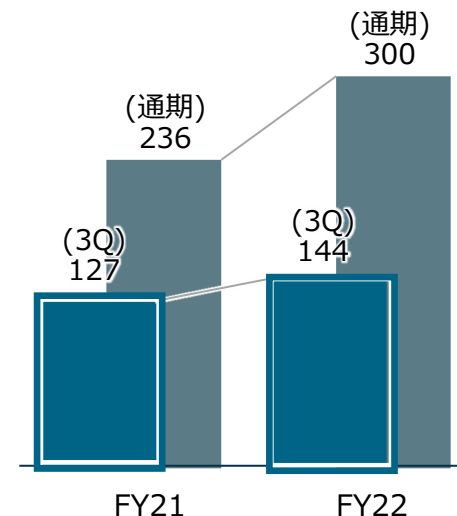
受注高



売上収益



事業利益



3Q実績 前年同期比

- 増益：**
- ・製鉄機械
- 減益：**
- ・機械システム

受注高

主な事業	受注高	
	FY21-3Q	FY22-3Q
エンジニアリング	826	607
製鉄機械	3,155	3,230
機械システム	1,146	1,256

売上収益

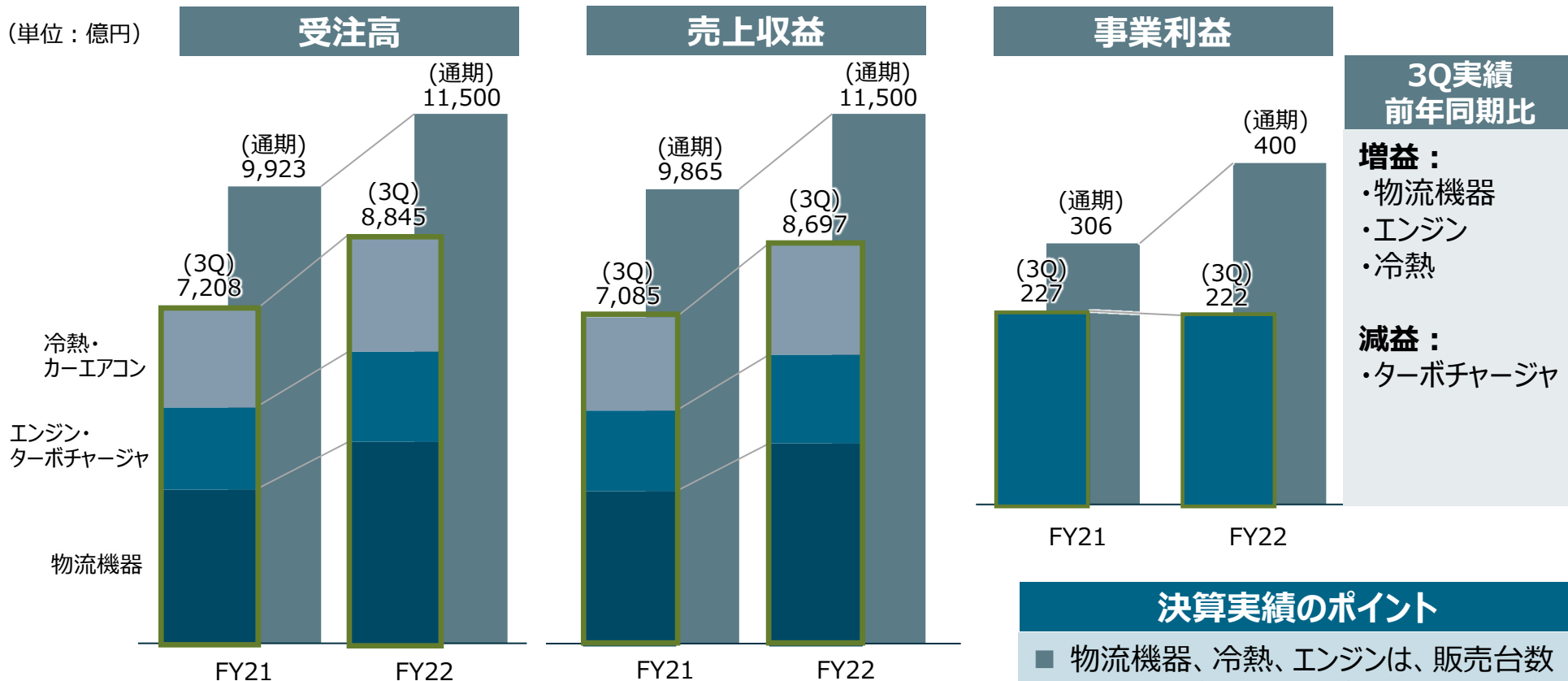
	売上収益	
	FY21-3Q	FY22-3Q
	1,017	754
	1,641	1,939
	970	1,030

決算実績のポイント

- 製鉄機械の受注は、日本を含むアジア、米州、欧州において新設案件を受注し、好調であった前年同期と同水準で推移
- セグメント全体の受注は、通期見通し達成に向けて順調に進捗

セグメント別 決算実績 <物流・冷熱・ドライブシステム>

(単位：億円)



**3Q実績
前年同期比**

増益：

- ・物流機器
- ・エンジン
- ・冷熱

減益：

- ・ターボチャージャ

主な事業	受注高	
	FY21-3Q	FY22-3Q
物流機器	3,366	4,407
エンジン・ターボチャージャ	1,789	1,957
冷熱・カーエアコン	2,114	2,541

主な事業	売上収益	
	FY21-3Q	FY22-3Q
物流機器	3,366	4,407
エンジン・ターボチャージャ	1,752	1,924
冷熱・カーエアコン	2,026	2,426

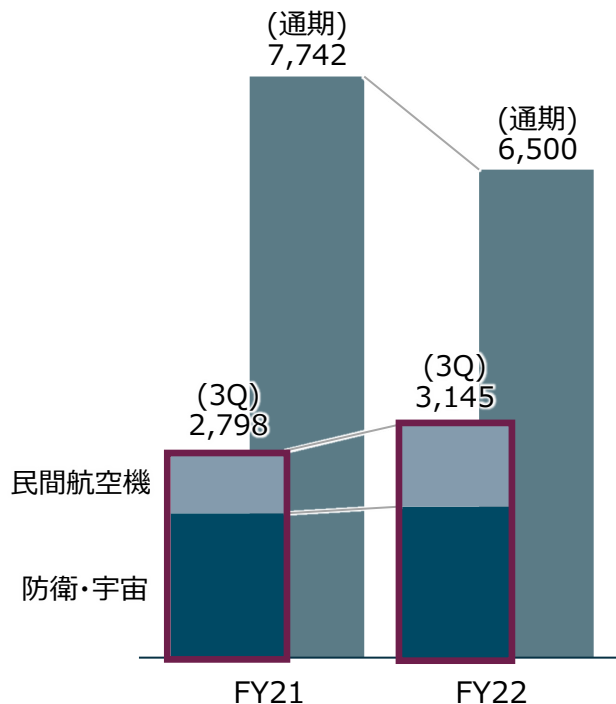
決算実績のポイント

- 物流機器、冷熱、エンジンは、販売台数増加および為替影響が寄与し増収増益
- ターボチャージャは、自動車メーカーの生産調整の影響を受けて、出荷台数が伸び悩み
- 材料費・輸送費の高騰影響が続くも、価格適正化の効果により採算改善基調

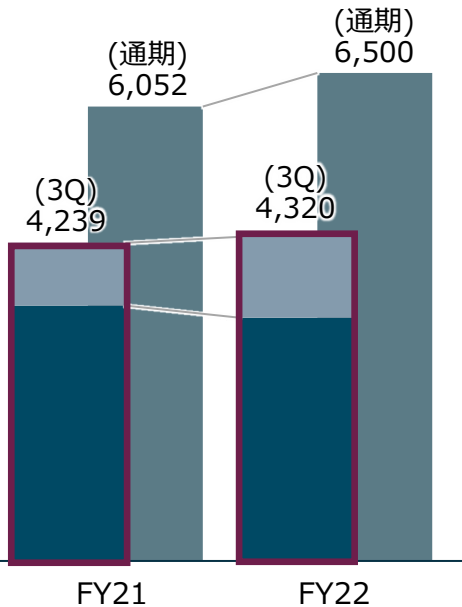
セグメント別 決算実績 <航空・防衛・宇宙>

(単位：億円)

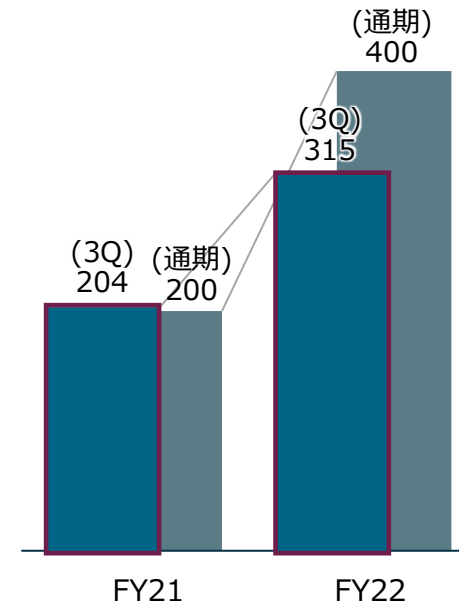
受注高



売上収益



事業利益



3Q実績 前年同期比

- 増益：**
- ・防衛
 - ・民間航空機
- 減益：**
- ・宇宙

受注高

主な事業	受注高	
	FY21-3Q	FY22-3Q
防衛・宇宙	1,960	2,049
民間機	838	1,097

売上収益

	売上収益	
	FY21-3Q	FY22-3Q
	3,403	3,243
	835	1,076

決算実績のポイント

- 防衛・宇宙は堅調に推移
- 民間機は、Tier1事業のうち貨物機・ビジネス機の出荷機数増加、為替影響および固定費抑制により増収増益

Ⅲ. 2022年度業績見通し

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、また、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

従いまして、この業績見通しのみにより投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。

実際の業績は、様々な重要な要素により、この業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、当社グループの事業領域をとりまく経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。

2022年度業績見通し サマリー

前回公表値（2022年11月1日）から前提為替レート（ドル）を見直し

(単位：億円)	2021年度 (利益率)	2022年度 (利益率)	増減 (利益率)	(増減率)
受注高	40,677	40,000	△677	(△1.7%)
売上収益	38,602	41,000	+2,398	(+6.2%)
事業利益	1,602 (4.2%)	2,000 (4.9%)	+398 (+0.7%)	(+24.8%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	1,135 (2.9%)	1,200 (2.9%)	+65 (+0.0%)	(+5.7%)
ROE	7.7%	7.7%	-	
EBITDA	2,924 (7.6%)	3,300 (8.0%)	+376 (+0.4%)	(+12.9%)
フリー・キャッシュ・フロー	3,018	△1,000	△4,018	
配当	100円 中間45円/期末55円	120円 中間60円/期末60円	前提為替レート： 1ドル=130円（前回 140円） 1ユーロ=140円 未確定外貨：11億ドル、2億ユーロ	

2022年度業績見通し セグメント別内訳



前回公表値（2022年11月1日）から一部見直し

(単位：億円)	受注高			売上収益			事業利益			
	FY21 実績	FY22 見通し	FY21比 増減	FY21 実績	FY22 見通し	FY21比 増減	FY21 実績	FY22見通し		FY21比 増減
								今回	前回	
エネルギー	14,443	15,000	+557	16,510	17,000	+490	862	1,100	1,200	+238
プラント・ インフラ	8,909	7,500	△1,409	6,518	6,500	△18	236	300	300	+64
物流・冷熱・ ドライブシステム	9,923	11,500	+1,577	9,865	11,500	+1,635	306	400	400	+94
航空・防衛・ 宇宙	7,742	6,500	△1,242	6,052	6,500	+448	200	400	300	+200
全社又は消去	△341	△500	△159	△345	△500	△154	△3	△200	△200	△198
合計	40,677	40,000	△677	38,602	41,000	+2,398	1,602	2,000	2,000	+398

IV. 補足資料

大型ガスタービン 受注台数・契約残台数

	FY21-3Q	FY21通期	FY22-3Q
米州	-	5	4
アジア	3	5	4
EMEA	-	-	1
その他	6	6	2
合計	9	16	11
契約残台数	41	46	43

民間航空機 出荷機数

777	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
FY21	5	4	6	5	20
FY22	6	7	7		20

777X	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
FY21	2	1	1	0	4
FY22	1	0	0		1

【参考】中国の協業先企業における受注台数

	FY21-3Q	FY21通期	FY22-3Q
受注台数	4	7	21

787	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
FY21	14	5	4	2	25
FY22	5	7	8		20

研究開発費、減価償却費、設備投資

(単位：億円)

	FY21-3Q	FY22-3Q	2022年度見通し
研究開発費	755	829	1,300
減価償却費	984	1,033	1,300
設備投資	844	933	1,300

販売費及び一般管理費

(単位：億円)

	FY21-3Q	FY22-3Q
販管費	4,048	4,485

為替レート (売上計上平均レート)

	FY21-3Q	FY22-3Q
USドル (円 / USドル)	110.5	135.3
ユーロ (円 / ユーロ)	130.0	137.6

受注残高 (単位：億円)	FY21-4Q	FY22-3Q
エネルギー	31,144	32,638
プラント・インフラ	12,434	14,831
物流・冷熱・ドライブシステム	432	577
航空・防衛・宇宙	10,871	9,697
合計	54,885	57,749

地域別売上高 (単位：億円)	FY21-3Q		FY21通期		FY22-3Q	
日本	12,499	(47%)	18,877	(49%)	12,142	(41%)
アジア・パシフィック	5,181	(20%)	7,116	(18%)	5,670	(19%)
米州	5,029	(19%)	7,399	(19%)	7,532	(26%)
EMEA	3,743	(14%)	5,208	(14%)	4,034	(14%)
合計	26,453	(100%)	38,602	(100%)	29,380	(100%)

SpaceJet について

SpaceJet の開発中止を決定

- 立ち止まりとしていた SpaceJet M90 の開発活動を中止
- 今後とも SpaceJet の知見を活かし、完成機を見据えた我が国航空機産業の発展と技術力向上に取り組んでいく

反省点

- ✓ 高度化した民間航空機の型式認証プロセスへの理解不足
- ✓ 長期にわたる開発を継続して実施するリソースの不足

中止する理由

以下の観点から開発再開に足る事業性を見出せず

- ① **技術** 開発長期化により一部見直し要。脱炭素対応等も必要
- ② **製品** 海外パートナーより必要な協力の確保が困難と判断
- ③ **顧客** 北米でスケールアップ（労使協定による機体サイズ等の制限）の緩和が進まず、M90では市場に適合しない
足下でのパートナー不足の影響もありRJ市場規模が不透明
- ④ **資金** 型式証明の取得にさらに巨額の資金を要し、上記市場環境では事業性が見通せない

今後の取り組み

1. CRJ事業での完成機事業への取り組み
2. 海外OEMとのパートナーシップ深化
3. 完成機を見据えた次世代技術の検討
4. FX（次期戦闘機）への知見活用
5. 愛知県にある施設・設備活用

SpaceJet 開発により達成できたこと

TC取得しうる機体を設計・製作・認証する体制の整備
3,900時間超の試験飛行を安全トラブルなく遂行

民間旅客機への日本での型式証明プロセス実践
欧米当局との二か国間相互認証協定の締結

航空機開発プロセスのデジタル化に向けた技術情報獲得
Model Based Systems Engineering (MBSE)
Certification by Analysis (CbA：解析による適合性証明)

技術的な成果

航空機開発へ
の本格的な
V&V 適用

大口径GTF
エンジンの
RJ主翼搭載

CFDを用いた
空力最適化

VaRTMでの
新材料等の
適合性証明

世界レベルの
飛行試験
実施経験

実機レベルの
試験設備
(名古屋地区)

TC:型式証明、V&V: Validation & Verification、GTF: ギアトランスミッション、RJ: リージョナルジェット、CFD: コンピュータによる流体解析、VaRTM: 真空含浸法

